

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成22年度第2回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成23年1月17日(月) 10時～12時3分
開催場所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	議事(1) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン・取組事業の追加について 議事(2) 今後の新たな取組等について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長, 嘉門副会長, 関委員, 佃委員, 曾我部委員, 好井委員, 宮本委員, 佐伯委員, 三井委員, 岩瀬委員, 熊委員
傍 聴 者	0 人 (定員若干名)
担当課および 連絡先	企画課 (839-2135)

### 会議経過および会議結果

会議の概要は、次のとおりです。

(会長)

まず、議事(1) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン・取組事業の追加について、事務局から説明をお願いします。

議事(1) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン・取組事業の追加について、事務局から説明。

(会長)

平成22年3月に策定された共生ビジョンのうち、「1 定住自立圏および市町の名称」、「2 定住自立圏共生ビジョンの目的および期間」、「3 定住自立圏の将来像」については、本懇談会での、これまでの議論を通じ、既に合意が得られている部分でございます。また、「4 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組」および「5 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン事業一覧」に掲載する具体的取組については、本懇談会の意見を踏まえ、周辺町と協議した結果、合意に達した内容であり、報告事項で

ございますので、御了承をお願いいたします。

内容等について質問がございましたら、御発言をお願いします。

(委員)

救急艇の、平成22年度の出動実績はどうなっていますか。

(事務局)

平成23年1月から就航していますが、まだ出動実績はありません。

(委員)

救急艇を整備したということ、周知徹底し、有効利用していただきたいと思います。

(委員)

救急艇は、出動先である、島しょ部に繋留しておくのが一番良いと思います。

(事務局)

高松市が整備した救急艇であり、操縦者の待機等の問題もありますので、高松市内に繋留しておくこととしています。また、救急艇の出動要請は、医師の判断となります。

(委員)

救急艇の運用経費は、周辺町も負担するのですか。

(事務局)

1回の出動当たり52,000円を周辺町に負担していただくこととしています。この金額は、人件費も含めた、救急艇の総経費を、1回当たりの出動に割り戻して算出した額です。

(委員)

観光に関する取組は、圏域内だけでなく、もう少し広い範囲で取り組まないと成果が出にくいのではないのでしょうか。

(事務局)

観光に関する取組自体は、四国全体での取組や、岡山県との連携等を行っています。共生ビジョンには、圏域内の取組だけを掲載しています。

(委員)

国内外観光客向け情報発信事業については、現場との連携がどれくらい取れているかが大切だと思います。外国語版ホームページで圏域を紹介しても、実際に商店街等の現場に行くと、全く外国語に対応していないというケースが想定されると思います。

また、イベント交流の促進についても、市主導のイベントだけでなく、市民主導のものとの連携も考えていただきたいと思います。

(委員)

国内外観光客向け情報発信事業については、ポータルサイトを作成するよりも、インターネット広告を工夫した方が効果が上がることも考えられます。

(会長)

委員皆様の御意見については、事務局において、今後に生かしていただければと思います。他に御意見はありませんか。

(委員)

環境学習の推進の事業費は、61,000円とありますが、どういう取組を想定していますか。

(事務局)

事業費については、市職員が講座の講師を務めますが、その人件費が含まれておりませんので、出前に係る交通費と会場使用料のみとなっています。年間60～70回程度の出前講座の開催を想定しています。

(委員)

子どもたちに興味を持ってもらい、環境に対する意識を深めてもらうことが大切だと思います。

(委員)

国内外観光客向け情報発信事業について、外国語に対応できる人材の育成や派遣を今後考えていかないと、対応できなくなってくるのではないのでしょうか。

(事務局)

現在、県との間において、国際会議の誘致を進めておりますが、その中で、ホテルや観光地における、外国語に対する対応が十分できていないという共通認識を持っており、協議を行っているところです。

(委員)

イベント交流の促進について、連携町が3町だけとなっているのは、何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

お互いのイベントを周知することについては、5町全てと合意できているのですが、今回の取組は、お互いのイベントに参加する内容となっており、その合意ができたのが3町ということであり、残り2町についても、後ろ向きというわけではありません。

(委員)

様々な意見に対応しようとしすぎて、総花的な内容になってしまっているように思います。もう少しターゲットを絞る必要があるかもしれません。

(委員)

平成22年3月策定の共生ビジョンに基づいた取組の、平成22年度における具体的な成果や、個別の取組の具体的な実施方法等について、委員にフィードバックしていただければと思います。

(会長)

取組を広げすぎたような感がありますので、事務局の方で、我々の意見を参考に、集約をしていただければと思います。「島、街、里が織り成す重層的なネットワーク」ということが共生ビジョンの目的に掲げられていますので、これを基本コンセプトに、個別の取組を御検討いただきたいと思います。

次に、議事(2) 今後の新たな取組等について、委員皆様の御意見をお聞きしたいと思います。

私の印象では、「圏域マネジメント能力の強化」に関する取組が、内容的にも、事業数的にも、やや弱いと思います。また、ネットワークの在り方として、公共交通に関する取組も遅れていると思います。

(委員)

大学等との連携の取組が、進んでいないように思います。産・学・官・民が連携した取組を積極的に推進することが重要だと思います。

(委員)

「事業仕分け」のようなシステムを取り入れて、取組の絞込みを行った方が良いので

はないでしょうか。

(会長)

本日の資料の2ページの取組事業一覧には、多くの取組が掲載されていますが、これは総務省に提出する資料として必要なのでしょうか。少し掲載内容を広げすぎているように思うので、もう少し集約する必要があると思います。

(事務局)

この資料は、総務省に提出する資料として必要です。

行政が事業を行うに当たっては、その評価をする必要があります。定住自立圏についても、どういう事業を行うのかを一覧の形で掲載し、これらが、掲げた目標にどの程度到達しているのかを見ていくことが必要です。そうやっていくことで、まだ住民への認知度が低い定住自立圏の事業を、認知していただきたいと考えています。

今後、人口減少や高齢化が進んでいく中で、立ち行かなくなる基礎自治体が出てきた場合に、その自治体が、中心市を頼ってくるようになれば、総務省や、我々行政サイドが考えている定住自立圏の制度が動き出すのではないかと考えており、その意味でも、最初は、こういった資料が必要と考えております。

(委員)

やはり大学との連携がうまくいっていないのかな、と思います。いろいろな事業をするに当たって、学校や生涯学習機関を活用していくと良いと思います。将来的には、共同でネットワーク利用をするとコストが安く済みます。

また、島しょ部や中山間地域をどうしていくのかということなど、重要なところに絞って議論を進めると良いと思います。

(委員)

共生ビジョン策定に当たっては、香川県は関与しないのですか。

(事務局)

地域主権や地方分権が進む中で、最終的な受け皿は、住民にとって一番身近な、基礎自治体であろうと思います。そういった将来の姿と、現状とを比べたときに、基礎自治体の権限や財源が非常に少なく、都道府県に権限・財源が集中しています。それをいかに基礎自治体に下ろすかが課題であり、そのスキームのひとつが、定住自立圏であると考えています。市町村の連携によって、権限や財源の受け皿をしっかりとさせた上で、県との協議をしていく必要があると思っています。

(委員)

県は、市の現状を知らずに政策を立案する傾向もあるので、十分に県の考えをチェックしてください。

また、救急艇について、将来的には、出動先である島しょ部への繫留も考えてください。

(委員)

就職を希望する若い世代が外に出て行ってしまうことが、人口減少の要因となっていると思うので、雇用の斡旋や、雇用の場をつくるといった活動が盛り込めれば、定住につながると思います。

(委員)

若者たちが地方に帰ってきたくなるような基盤作りが大切だと思います。公共交通の充実や、島しょ部の空き地・空き家情報の提供など、人口が増えるような方策を考えていきたいと思います。

(委員)

定住自立圏の取組の、対象者が誰であり、どうなってほしいのかということが見えにくい状況です。例えば、外国語のホームページを作成するという取組については、外国人の方にごどこに行ってほしくて、そこで何を体験してほしいのか、といったことまで示してほしいと思います。

また、事業同士が単発に見えるので、個々の取組がどう繋がって、目標に向かって進んでいくのか、という点について、具体事例が出てくると良いと思います。

それから、先ほど取組の評価をする必要があるというお話がありましたが、どういふふうに評価するのか、評価基準をはっきりさせると良いと思います。

(委員)

取組の充実と、財政面の問題という、相反する命題を解決するために、今回のビジョンを策定するのではないかと考えています。先ほどの、取組の評価の基準のひとつとして、連携して取組を進めることによって、コストがどれくらい削減できたか、ということも大切ではないかと思っています。

また、圏域マネジメント能力の強化として、民間企業との連携も重要ではないかと思っています。社内の根回しや迅速な意思決定など、自治体職員の受けている研修とは違ったことも学べると思います。

(会長)

本懇談会のゲストスピーカーとして、民間企業の実務経験を持つ方に来ていただくことも含めて考えましょう。

(委員)

瀬戸内国際芸術祭を見させていただいて、この圏域は、ポテンシャルを持った素晴らしい地域であると感じました。こえび隊の活動などで、県外から来た若い人が、高松を気に入って、住みたいと言っていたが、就職面等で折り合いがつかず断念したという事例も見られ、そういった人に移住してもらえるような取組ができれば、と思います。

(委員)

人口が減ると大変だ、ということがよく言われますが、人口が減ってきたときに、どのような社会になっていけば住みやすいのか、ということを考えるべきで、人口が減ること自体が大変だ、というふうには考えない方が良いでしょう。

(委員)

人口減少は自明の理であり、これからは、人口が右肩下がりの社会にふさわしい施策を考えなければならないと思います。

(委員)

人口減少自体が問題なのではなく、人口を構成する年齢のバランスが問題なのだと思います。

(会長)

委員皆様には、今後とも、柔軟な発想で御意見をいただければ、と思います。これからも、事務局ともども、ブレインストーミングの場を設けていきたいと思います。今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

今後のスケジュールについて、事務局から説明。

(会長)

本日はこれで終わります。ありがとうございました。